

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103163		
法人名	株式会社 ペシエ・ドマーニ		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	〒851-0301 長崎市深堀町5-216-2 (電話) 095-832-3360		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(平成 19年 12 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	9.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階 建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,616 円	その他の経費(月額)	19,600円 + 実費	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	170 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原口医院・ひぐち歯科医院・長崎記念病院
---------	---------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年、鶴見台団地に開設された前身のホームが、平成18年5月に古き良き佇まいの小さな城下町の住宅地にある現在地に移転された。近隣には保育園・幼稚園・小学校が点在し、登下校時は子供たちの賑やかな声や、幼子をつれた送り迎えの若い母親たちが行き交う姿がある。当ホームは夜間帯の安全性や職員の負担等を考慮し、夜勤2名体制(併設している宅老所を含む。)でのケアを実践されている。入居者は静かに、のんびりと思いおもいに過ごされており、訪問時には、プリンターに水遣りをする姿が遠くから目に入る等、入居者はそれぞれに役割を持って過ごされている。職員は入居者の自主性を尊重して対応しているのが窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の主な改善項目は、1.家族への日常の様子に関する情報提供 2.家族の要望や意見を引き出す働きかけ 3.継続的な研修の受講である。改善項目については改善計画シートは作成されておらず、意識的・計画的に改善に向けて取り組んでいるとは言い難い。家族には入居者の暮らしぶりや日常の様子、心身の状況の変化等を定期的に具体的に伝えたり、職員の移動、その他定期的な報告が出来るような『便り』の発行に期待する。又、家族の意見を引き出せるような取り組みの工夫に期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者自らが作成し、回覧が促されているが、職員にその意義とねらいが伝えられておらず、職員全員で取り組んだとは言い難い。自己評価は項目一つひとつを職員全員で点検していくその一連の過程が重要で、職員の意識合わせ、ケアの振り返りや見直し等が可能になり、年1回の評価を計画的・継続的に取り組んでいく事が望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、H18年9月、H19年2月・7月と3回の開催で、おおむね2ヶ月に1回以上開催するまでには至っていない。議題は、第1回・地域密着型サービスについて・運営推進会議とは等、会のあり方に関する事が出されている。ホームの現状報告・今後の行事予定は全回説明されている。時節に応じた議題も取り上げられ、参加者からの質疑はホームへの関心が深い事が窺える。外部評価結果は運営推進会議のメンバーに郵送し、玄関の分かりやすいコーナーにて公表している。但し、運営推進会議録に外部評価結果を検討した旨の議事は見受けられない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱は設置されているが利用されていない。毎月の請求時にテーマを決めたアンケートや満足度調査などの協力を依頼し、意見箱に入れて頂く等の取り組みの工夫が望まれる。面会時に出されるご家族の意見や要望には柔軟に対応している様子が窺えるが、家族は意見や不満、苦情等言にくいという事を理解し、職員や事業所側からも積極的に意見等を聞く努力や場面作りが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在のところ自治会に加入するまでには至っていない。近隣には保育園・幼稚園・小学校等もあり、相互交流の機会としたり、自治会加入で地域住民の一員としての活動や役割を担っていく事、地域の人々と支え合うような双方向関係作りが望まれる。運営推進会議には、関心の深い地域代表の協力を仰ぎ、地域の多彩な人々に参加して貰う等、地域との関わりを深めていく事が望まれる。又、消防訓練も地域と一体となった協力体制の構築に期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	概ね「安心して寛げる環境づくり・一人ひとりの機能や能力の維持、発揮と、自立の支援」が謳われているが、地域の中でその人らしく生活する事を支えるケアの、具体的イメージが盛り込まれているとは言い難い。今後は、理念は分かり易いものに見直す予定である。		見直しを機会に、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、これまでの理念に加え、地域密着型サービスの役割を目指した内容となる事に期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングの際に、理念の意識付けが行われている。職員は日々のケアの言葉掛けや態度に意識して、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在のところ自治会に加入するまでには至っていない。神社の催しへの参加はあるが、地域と馴染みの関係を構築するまでには至っていない。		自治会加入や地域活動で、地域の人々との関わりを積極的に持つ事、小学校・幼稚園・保育園行事などの相互交流、運営推進会議に働きかける等、共に暮らす住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく事業所としての努力と、事業所と地域の人々が支えあう双方向関係作りに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者自らが作成し、回覧された様子であるが、自己評価は全職員で取り組むべき事や、そのねらい・活用方法などは周知されておらず、全職員で取り組んでいるとは言い難い。		自己評価の一連の過程を全職員で取り組む事で、職員の意識合わせ・ケアの振り返りとなる事など、その意義が周知される事が望まれる。自己評価の点検は取り組みやすい項目から、計画的・継続的に取り組み、年1回の評価を最大限に活かしていく事が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは民生委員・家族代表・地域包括支援センター職員等である。地域代表の関心は大きく、質疑も熱心で協力的である。外部評価結果は運営推進会議のメンバーに郵送し、玄関の分かりやすいコーナーにて公表している。但し、運営推進会議録に外部評価結果を検討した旨の議事は見受けられない。		運営推進会議には、警察・消防・自治会・老人会・婦人会・子ども会・有識者等、幅広い立場の人が参加する会議として、その意義と役割等を十分理解して積極的に参加して貰えるような働きかけが望まれる。又、自己評価の内容説明や外部評価の結果公表で、運営推進会議と評価を一体的に活かした取り組みの相乗効果に期待したい。

グループホーム 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	H19年2月、市派遣の介護相談員2名を受け入れ、活用している。運営者が事務処理関連事項を実務し、適時に市担当窓口との連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時にその都度伝えている。請求書送付時に写真を添えたり、近況報告がなされている。しかし、定期的な便りの発行には至っていない。		職員の移動等や、家族が知りたい事を考慮し、心身の状況についての何らかの変化が起きた時や、受診後の家族への連絡等、きめ細かく報告し記録に残す事や、定期的な報告も盛り込まれた便りの発行に期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。誕生会は催されているが、家族の参加は無く、家族同士が集まって意見を出し合う場の家族会の開催には及んでいない。		家族等は、意見や不満、苦情等を言い難いという事を理解し、職員は席を外して、家族同士で話し合う時間を設けるといった家族会の開催や、毎月の請求時にテーマを決めたアンケートの協力を依頼し、面会時に意見箱に入れて貰う等、意見を出して貰う工夫の取り組みに期待したい。又、定期的な満足度調査を行うなど事業所の運営に反映するような取り組みにも期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	欠員の補充が諸事情により後手にまわり、職員の負担・協力により入居者への影響が避けられている。新人職員の採用の際は、入居者に紹介し、最初のうちは、ソファに座って入居者とゆっくり関わって貰ったり、これまでの経歴等を活かしながら、馴染んで貰うような工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種専門分野職員の採用等、職員の質の向上には意欲が見られる。職員の資格取得が奨励され、助成がある。毎月第2水曜日に行われている、グループホームの研修には、担当職員の参加がある。しかし年間計画の中で理解や習熟度に応じて、段階的に力を付けていくような機会作り、年間を通した研修項目の習熟には及んでいない。		1.限られた職員体制の中でも実務に支障をきたさないようにしながらの職員の研修機会の確保2.各職員の立場・経験・地域密着型サービスについての理解や習熟度に応じ、段階的に力を付けていけるような機会作り3.職員が日々の体験を学びに繋げていく為のスーパーバイザーの導入の検討4.研修項目を、年間を通して計画的に充実して実施していくなどといった今後の取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの合同研修会には毎回参加している。運営者は問題意識を持ち、各事業所の代表者等と改善への意欲を以って、情報交換をしている事が窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族にホームを見学して頂いたり、職員が自宅を訪問しながら、本人の納得・安心に繋がるように、入居の支援がなされている。入居後は他の入居者と馴染み、信頼関係が築けるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性入居者と女性入居者とで意見の相違があったような時に、当事者外の入居者から「男を立てんば」「女が一步引かんば」等といった声が聞かれ、昔ながらの役割の違いといった生活の知恵等を、教えられる事が多く、日々の関わりの中で、そういう場面を多くもてるように工夫している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の昔住んでいた処へのドライブや散歩は、記憶の呼び起こしや楽しみの支援として行われている。又、入浴時等、リラックスした時に話される故郷の話などを聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングの中で、3人ずつケアプランの検討がなされている。家族面会時に、家族の意見や要望等、聞くようにしている。日々の関わりの中で聞き取った思いや意向は業務日誌には記載されている。しかし、個人記録やアセスメントに積み重ねられるようになっておらず、ケアプランに反映されているとは言い難い。		日々の関わりの中で聞き取った本人の思いや意向は、アセスメントに積み重ねられるような記録の工夫と、ケアプランに反映するような書式の改善に期待する。ケアプランについての話し合いには、ご家族への説明に留まらず、家族や本人がどのように暮らしたいのか等、深めた話し合いになる事を希望する。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月に1回の見直しが行われている。個人記録にはケアプランの目標項目が明確に記載されておらず、評価やケアプランの見直しに反映されているとは言い難い。		ケアプランのどの目標が個人記録のどの記録に反映されて実践されているか、その日の評価や気付きまで一覽出来るようにすると見直しがより簡潔・明確化し、記録に費やす時間の短縮にも繋がると思われる。効率的で書きやすく、見やすい実践の裏付けとしての記録の検討に期待したい。

グループホーム 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「寿司を食べたい」「お墓に行きたい」との要望には個別の対応がされている。地域の理容院に訪問して貰ったり、パーマや毛染め等は近所の美容院への付き添いの支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣から入居された方は、これまでのかかりつけ医の往診があり、他の方はご家族同意の提携医の往診である。体調変化には、かかりつけ医との連携を密に往診して貰っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについての合意書が家族と交わされている。医療関係者・家族・職員等で検討会議が開かれ、状況に応じ、全員で統一した方針の共有がなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉掛けや態度は、入居者を尊重して対応している。記録類は事務コーナーや食卓テーブルで記入し、入居者を見守りながら記入するよう配慮されてる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に仏壇を持ち込み、一日を仏様のお世話から始める方もいる。希望により夜間の入浴支援も行われている。入居者はそれぞれ歌が好きであればみなをリードする、調理の下拵えをする、雑誌を読む、ソファで寛ぐと思いいいに過ごしておられる。		

グループホーム 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根切等、調理の下拵えや配膳の準備、後片付け、茶碗拭き等、それぞれの力を活かしながら職員も一緒に行っている。おいしそうな配膳の工夫や彩りにも配慮が窺えた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴出来るように朝風呂や、夜間入浴に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日に3回と限度を設けながら喫煙の支援が行われている。洗濯物たたみ、食事の下拵え・準備・後片付け・おやつ作り・裁縫・書道・園芸・水遣り等多岐にわたった支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物へ出かけたり、入居者が昔住んでいた近辺にも、記憶の呼び起こしや楽しみとして出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵は掛けられていない。『ダメ』といった制止や禁止をするのではなく、外出の様子が見られた時は、声掛けしドライブや散歩へと促しながら気分転換を図ったり、その人の思いに寄り添ったケアに心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力・指導のもと、避難訓練が行われている。補助金助成により設置された火災報知機には、認知症入居者の混乱を避ける工夫と配慮がなされていた。		

グループホーム 和が家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事の摂取量を記録し、職員で共有している。手作りのバナナジュースや寒天で排便を促す等、日頃の様子を観察した支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製の家具は明るく温かく、家庭的な雰囲気がある。ゆっくり寛ぐダイニングからは、調理する姿がよく見え、ご飯の炊ける匂いがしている。季節の花々が随所に飾られ気持ちが和まされている。大きく見やすい時計がかけてあったり、トイレへの表示に分かり易い工夫がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く、過ごせるようにと入居前に自宅を訪問し持ち込む家具についての話し合いがなされている。居室には仏壇・写真・時計・椅子・TV・タンス・引き出し等が思い思いに持ち込まれ、それぞれにその人らしく設えている。		